



やまざとの風

～心を込めた「あいさつ」「校歌」輝く「笑顔」～

山里中学校だより

2023. 3. 15号

文責 小西



「第14回卒業証書授与式」

3月14日(火)、ご来賓の皆さま並びに保護者の皆さまのご臨席を賜り、第74回卒業証書授与式を挙行了しました。今年は3年ぶりに1・2年生も出席し、コロナ関係の人数制限もなく、無事に155名の巣立ちをみんなでお祝いすることができました。校長式辞では、本田勇人校長先生が卒業生に対して、これからの人生において大切にしてほしいことなど、式辞として述べられました。



～ 卒業証書授与式 式辞 ～

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

本日、この会場には、先生方、1・2年生の在校生はもとより、保護者、ご来賓の皆さま方が一堂に会し、皆さんの晴れの門出をお祝いすることができます。まずはそのことをともに喜びたいと思います。

特に今年は、「With コロナ」、コロナ禍ではあるけれど、工夫をして「日常を取り戻そう」と、体育大会、合唱コンクールでは、数年ぶりに保護者の皆様をお迎えし、高い表現力を見せてくれました。校外活動においては、小学生と高校生と共に活動しながら、改めて爆心地に最も近くにある中学校としての役割と責任を確認する「山里地区平和合同清掃」も再開してくれました。

また、「With コロナ」時代におけるあいさつの在り方として「山中あいさつ」をつくり上げてくれたことも私としては大変うれしいことでした。「相手の目を見るということ」「自分から笑顔であろうとすること」「先にこちらからあいさつすること」「大きな声ではなく、相手に伝わる声であるということ」。これらは、実は、本来の「あいさつ」、「あいさつ」の本質を示しているものであり、人との良い関係づくりのためにはとても大切な四項目であると思います。これからも、皆さんが作り上げてくれた「山中あいさつ」を新たな伝統として、長く引き継ぎ、大切にしていきたいと思います。

さて、皆さんは、これからの新しい時代、変化の激しい社会の中で、この国、並びに郷土長崎がさらなる発展を遂げるために、自分自身の生き方、これからの国のあり方などいろんなことを感じ、そして自分がなすべきことを考えて、行動を起こしていかなければなりません。そのようなこれからの郷土長崎を、この国を支え、背負っていく皆さんに、2つのお願いをしてはなむけしたいと思います。



まず、一つ目は、「**懸命に生きる自分を信じていこう**」ということです。

卒業生の皆さんは、中学校3年間、コロナ禍の制限や制約の中で、事あるごとに、ひたむきに、一生懸命に考え、行動することでいろんなことを実現させてきました。そのことで、皆さん一人一人は、大きな自信をつかんだことと思います。今後も、常に懸命に考え、行動することが新たな道を切り開くことになることを忘れず、懸命に生きる自分を信じて、さらに希望に満ちた人生を送ってほしいと思います。

二つ目は「**周囲の人と心を通わせることを大切にしていこう**」ということです。

皆さんはこれまでの中学校生活で、相手の心と自分の心を通わせることを大切にしながら、いろんなことに取り組み、成果を上げたり、時にはうまくいかなかったり、そのたびに共に喜んだり、励ましあったりして、実に多くの人に囲まれ、支えられながら成長してきました。これからの人生においては、楽しいことばかりではなく、いろんな多くの困難が待ち受け、心が苦しくなることもあるかもしれません。しかし、どんな時にもあなたは、決して一人ではないことを信じてほしい。どうか、周囲の人たちと心を通わせることを大切に、ともに助け合って行ってほしいと思います。

この2つは、確固たる信念を持った自分を育て、周囲の人と協力していく姿勢を身につけることにつながります。さらにそのことは、現在の大きな困難や課題を克服し、すべての人々の平和と繁栄が実現できることにつながるものと思います。

「懸命に生きる自分を信じ」「周囲の人と心を通わせること」。この3年間しっかりと中学校生活を送ってきた皆さんならできるはずです。大いに期待しています。

保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。中学生の三年間、コロナ禍の中で、いろんな制限や制約、心配や不安なことも多く、親子共々、泣き笑いがあり、苦しいこともあったと思いますが、お子様を信じて、本日までじっと見守りながら過ごしてこられたことと思います。

しかし、お子様は、この3年間でこのようにたくましく成長されました。これからも苦しんでいるときや悩んでいる様子が見えたときには、そっと手を差し伸べ、温かく見守るとともに、時には、厳しく叱り、支えていただきたいと思います。

私も教職員一同、お子様の成長と今後のご活躍を心から願っております。

卒業生の限りない前途を祝し、また、感謝申し上げ式辞といたします。

令和5年3月14日 長崎市立山里中学校長 本田 勇人



多くの方から祝電やお祝いのメッセージをいただきました。在校生も素晴らしい歌で卒業式を盛り上げ、それに応えるように卒業生も式歌を披露、退場前に3年生が歌った「群青」も圧巻でした。平和に対する思いとともに、この歌声も在校生に引き継がれているのだと、改めて感じました。

あと半月後は4月となり、新しい年度になります。1、2年生にとって来週は修了式(3/24・金)です。

それぞれが次のステージに上がる前に、やり残したことがないかなと振り返り、4月からに備えてほしいと思います。保護者の皆さま、ご家庭での励まし等よろしく願います。